

国際学術研究分担出張調査略報

池田 温

創価大学

1998年9月10日～16日出張 北京

国家図書館（北京図書館）

陳捷氏同伴。貴重書については1日4点以内のきびしい規則があり、11日午前・午後及び14日午前を費やして下記4点調査。善本室李際寧氏応接

○『令集解』線装25冊、日本写本、小中村清矩旧蔵、朱師轍經眼、每半葉8行、行16字、〈飛青閣蔵書印〉〈星吾海外訪得秘笈〉印により楊守敬将来。 3093

○『令集解』残、存巻1-15、日本写本、線装8冊、〈古川氏蔵〉〈飛青閣蔵書印〉〈朱師轍観〉印、每半葉8行、行16字、欄上校記多。 3758

以上2点俱に清原家本系の転写本（近世後期）とみられる。（『中国館蔵日人漢文書目』254頁は『令義解』に誤る。）

○『貞観儀式』線装5冊、日本写本、每半10行、行21字、行書体精写、〈飛青閣蔵書印〉〈星吾海外訪得秘笈〉印、〈行事官〉〈行事官蔵〉印、「明治十年写之、徳川式胤」（巻1末識語）。 3770

○『元秘別録』勘文部6冊、線装、日本写本、每半葉12行、行約22字、虫損不少、〈東京師範学校図書印〉〈師範学校拂下之印〉あり、又〈飛青閣蔵書印〉〈星吾海外訪得秘笈〉印、記事は巻6末慶長・嘉福に終わり、以下余白、白紙18葉附き。 3094

北京大学図書館

1998年9月14日午後、15日午前・午後調査。北京大学創立百年記念で堂々たる新館が完成しているが、当時なお旧館使用中により狭い善本古籍閲覧室で閲読。同室で李玉編『北京大学図書館日本版古籍目録』（北京大学出版社、1995、217頁）受贈。本目録は、江戸時代末以前の漢籍和刻本778種5023冊と日本人の漢文・和文著作631種3778冊を含み、排架番号まで示されていて極めて有用。李盛鐸（1859-1937）旧蔵書が善本の過半を占める。

○『成唯識論述記』存7巻10冊 沙門基（慈恩大師）撰 折本鈔本、但巻3之大部分及巻7末、以版経補配。存巻2本・末、3本・末、4、5末、7本・末、8末、10。木箱2段収納、有虫損。日本无礙庵旧蔵、李盛鐸旧蔵。巻3末応徳三年（1086）移点識語、巻3本（版本）元久元年（1204）移点識語。李盛鐸注記2條。 李□4713

- 『佛果圓悟真覺禪師心要』卷上下合冊 線装 75 葉、〈題箋〉円悟曆応四年板、每半葉 11 行、行 20 字、有虫損。曆応四年（1341）臨川寺刊行本、末付癸未（1883）一月素軒居士識語 4 行、李盛鐸識語 2 行。 李□5514
- 『虎邱隆和尚語録』不分卷 線装 1 冊 30 葉（元）釈嗣端編 日本旧刊本 每半葉 9 行、行 17 字、虫損大破、李盛鐸旧蔵、未写題記「附与忍蔵主 文明三天春（1471）王正月吉日光篤老衲（花押）」。
李□5308
- 『論語』10 卷 線装 2 冊 日本天文二年（1533）刊本、每半葉 7 行、行 14 字。楊守敬・李盛鐸旧蔵。篇題下注「何晏集解」4 字、但本文只印『論語』本文而已。末附楊守敬跋 9 行（光緒癸未 1883）、鈐〈山西省提法使司印〉〈山西等承宣布政使司之印〉李盛鐸在任中捺印か。 李□8762
- 『帝王編年紀』存卷 1～10、13～21 計 10 冊 線装 每半葉 8 行、行 17 字、虫損 日本写本、句読訓点送仮名、一部朱校。 李550
- 『続日本紀』存卷 1～24 計 6 冊 線装、每半葉 10 行、行 22～24 字、行書精写 行間朱筆校記、初卷稍多、時付注釈、但乏精義。 李7857
- 『日本後紀』（『日本紀略』抄録か）20 卷 線装 10 冊 每半葉 11 行、行 20 字、白文、日本写本、有虫損。 □2861
- 『日本紀略』11 冊 2 函 線装 每半葉 9 行、行 16 字、精写、日本写本、首部僅付句点、含醍醐天皇～後一条院 長元九年（1036） □8112
- 『令義解』10 卷 4 冊 線装 日本寛政十二年（1800）刊本 每半葉 8 行、行 17 字 少虫損、鈐〈日本興亜院寄贈図書記〉印。 日390-921/3716
- 『烈祖成績』20 卷 10 冊 線装、精写 安積覺撰 享保一七年（1732）序、起天文二十年、終元和二年四月、鈐〈賜蘆文庫〉印。 5560
- 『本朝文粹』14 卷 5 冊 線装 日本写本（刊本写し） 每半葉 10 行、行 21 字、句読訓点送仮名、虫損。 4099
- 『倭訓類林』7 卷 4 冊 線装 日本写本 每半葉 8 行、行 17 字、双行注 虫損、上欄朱字注、墨字校、鈐〈志穀堂章〉〈日本興亜院寄贈図書記〉印。 日423.14/2094

1999 年 3 月 7 日～16 日出張 上海

上海図書館

楊守敬将来高山寺資料 9 点の実査を行った。その内容は別紙のとおり。その他閲覧した日本書若干を以下に略記。

- 『香字抄』上下 2 冊 日本鈔本 上冊 79 葉・下冊 71 葉（末白紙 2 葉）首存文素松（舟虚）識語、每半葉 7 行、行 10～12 字、背見補記、上冊卷末「御本云」文永六年三月十九日以覚洞院「御本書寫之畢」宗謙「下冊卷末「御本云」文永六年三月九日、於醍醐寺」寶箱院以覚洞院本書寫之、」件本者遍知院僧正成賢所持之」本也。宗了「上冊背有明治廿年六月宮崎石太郎識語及同年十月岡義夫識語捺印、下冊末有文化丙寅（1806）伊澤信恬識語及明治廿年十

月宮崎石太郎識語及同年月岡義夫識語捺印。

1 1 3 8 6

○『阿毘達摩俱舍論指要抄』5冊 線裝 日本鈔本 每半葉13行、行24字 27×19cm 少虫損

第1冊 卷1-2上 62葉 398116~120

第2冊 卷2-5 75葉

第3冊 卷6-12 81葉

第4冊 卷13-20 78葉

第5冊 卷21-30上 68葉 卷末「文化三丙寅十月」湖東北巴淨專寺写本借写置者也。

北伊勢菰野延長寺十一世「釈義雲写四十二歳。」墨校・朱校多、時有欄外補記。上冊尾裱云「王供匍捐贈」。

○『逸史』12卷5冊 中井積善撰 寛政八年(1796)脇屋長之序、寛政十一年五月撰者進牋、精写、明和庚寅(1770)撰者題辭、目錄自永禄三年至元和二年、〈頤□居士〉〈佐々木藏書〉〈上海圖書館藏〉印。

8 2 5 3 7 9

○『傳習録欄外書』上中下3冊 線裝 一齋居士稿本、每半葉10行、行16字、双行注多、下冊末天保元年(1830)膺月念六日江都佐藤坦大道書於愛日樓南軒。〈古晏室〉黃氏孝直藏書〉印。

1 0 4 3 5 1

○『證治古言』上下2冊 線裝 鈔本 江友益撰、寛政己酉(1789)序。

4 0 4 6 4 8

4 0 4 6 4 9

○『安政元曆』4卷4冊 鈔本 小出修喜閱編、小出光教訳撰、卷一32葉、卷二46葉、卷三41葉、卷四39葉、〔小郷藏書〕

1 0 7 3 4 1

○『隔牀論』1冊 線裝 鹽谷世弘著 安政己未(1859)題首、川島達書、卷末、大嶋信書、快風堂刻本、有王韜批語。

7 1 2 2

○『金元章詩』不分卷1冊 線裝 鈔本 金子元章撰、明治14年5月菅定模序、上欄存朱字訂補、本文中有朱筆訂補添作、末附鉛筆書七言律四季景4首、其後附遊紙3葉、本書可能習作。

8 0 1 0

○『養浩堂詩集』2卷2冊 線裝 楷書精写、宮島誠一郎撰、每半葉紅格10行、行20字、從庚辰元旦(1880)至甲申十一月(1884)。〈龍〉(円印)、〈楡生珍藏〉、〈上海圖書館藏書〉印。

3 9 0 3 5 2

○『片石共語齋印譜』1冊 線裝、江間俊刻、明治甲申(1884)成、〈江間俊印〉。

4 3 3 9 0 7

○『丹青式辨』5冊 線裝 瀧和亭畫 芸草堂、明治27年11月發行、刊刻畫集。

4 9 5 5 8 2

4 9 5 5 8 5

〈付論〉

楊守敬将来日本古文献について

池田 温

筆者は1996年4月に「中国現存日本古文献の一端―特に楊守敬将来品―」という一文を「日本歴史」575号の歴史手帳欄に寄稿した。そこで述べた所を略引すると、

海外にある日本の古文献といえば、・・・隣国の中国にも少なからぬ収蔵の存することが、近年おいおい知られるようになってきた。なかんづく明治13年～17年来日した清末の著名な学者楊守敬（1839年～1915年）の齎し帰った書籍・写経・寺院文書などは、その量の膨大さと質の高さにおいて比類を絶している。・・・彼は清国中日大使何如璋の招きに応じ来日、約4年の逗留の間に継任の公使黎庶昌の知遇を得、黎の『古逸叢書』編纂に協力したことも広く知られる。他方、巖谷一六・日下部鳴鶴・松田雪柯ら書家達と深く交わり、北派書法を伝え明治の書壇に画期的影響を与えたが、同時に森立之ら優れた古典文学/書誌学の達人と親密な交流を重ね、日本伝世の中国書籍の価値を知り自らその収集に力を尽くした。楊の集収はもとより漢籍に重点があり、渡来漢籍とその和刻本・日本写本を主体とするが、付随的に和書や日本の記録・文書も含んでいる。楊が実見著録した『日本訪書志』（1897）には古版・古鈔の善本二三五部を載せ、その搜訪の博さと見識をうかがうに足り、その多くが楊の手で中国に齎されたのである。そしてそこには未載のものを含め、膨大な将来文献がどのような内容のものでどこに現存するのか、近年まで知られるところ乏しかった。

楊氏収集の中核をなす善本類は、観海堂文庫として故宫博物院（台北）に約千五百余部一万五千余冊現蔵され、さいわいその内容は慶応義塾大学斯道文庫の阿部隆一・尾崎康氏の実査を通じかなり明らかにされている（阿部『増訂中国訪書志』汲古書院、1983・1～170頁）。そこには数十点の和書が混在し、なかに平安末写の類書『幼学指南鈔』残本10冊や狩谷望之『古京遺文』『日本国現報善惡靈異記附考証』の自筆草稿本等種々注意を引くものが存する。…右のほか楊氏将来本は北京図書館を始め、北京大学図書館蔵李盛鐸旧蔵本にも少なからず含まれ、新刊の『中国館蔵和刻本漢籍書目』（王宝平主編、杭州大学出版社、1995）には中国国内諸図書館に散在する楊氏旧蔵本（和刻・和鈔）十数点が登載される。

また石橋桂一（鯉城）氏は、1993年末済南市で実見された天平写経数点を含む古写経と真言密教儀軌類計百余点の存在を報ぜられた（日中文化交流五三六、1994年3月1日）。

…上海図書館には三五点日本古写経類が収蔵されているが、なかに楊氏の印のあるものが十数点（多く一二・一三世紀に属し、高山寺・方便智院などの印も見える）含まれている（呉織・胡群耘「上海図書館蔵敦煌遺書目録（続）附伝世本写経及日本古写本」敦煌研究一九八六—三、九七期一〇—頁）。なお楊氏とは関わらぬが、上海図書館蔵の日本古写大方広佛花嚴経卷第卅二と仏説金剛香菩薩大明成就儀軌経卷上の二卷には法隆寺一切経印が捺されている。『上海博物館蔵敦煌吐魯番文献』二、上海古籍出版社、一九九三、国版二六二、三三六、三四五頁）。

さらに武漢市の湖北省博物館にも楊氏将来の古文献が五十数点あることを同館員の唐剛卯氏から教えられた。日本写経・仏書・儀軌の類は仁平二年（1152）から応永卅四年（1427）に亘っており、高山寺印のあるものを相当含み、紙背に仮名文書を見ることが少なくないという。そのほか『年中行事秘抄』写本や「嘉禎四年（1238）具注曆」や「元応元年（1319）社家注進状」が見出された。右の最後に挙げた文書は、『続群書類従』神祇部卷五二收、竹内理三『鎌倉遺文』第三五卷に二七二九五として収載される原本に相当する。

以上たまたま筆者の見聞に及んだ若干にふれたに止まるが、楊氏将来本に代表される中国に齎された日本の古文献の現状の一端である。

この文がはからずも笠谷和比古先生のお目にとまり、京都の国際日本文化研究センターで海外に現存する日本文献・文物調査事業の一環として、中国が対象地域に組み込まれることとなった。

中国では一九七〇年代末、文革終了後近代化の為外国文化の摂取が空前の規模で行われるようになり、隣国日本の書物や美術品の組織的調査が進められ、浙江大学（当時は杭州大学）日本文化研究所の王宝平氏を主編として『中国館蔵和刻本漢籍書目』『中国館蔵日人漢文書目』（ともに杭州大学出版社、一九九五、一九九七）両目が編纂公刊された。そこには北京の国家図書館をはじめ、全国各省にわたって六八館に上る主要図書館に現蔵される漢籍和刻本と、日本人が漢文で撰述した書籍を実査して分類編目されており、前者に計五二六六六、後者は計二四二二三点に達する。和刻本には刊本の他写本も含まれ、明治時代以前を原則とするが、一部大正・昭和に降る本まで含まれる。これらを通じいかに夥しい日本の書籍が中国に渡り活用されているかを窺い、中日文化交流の重要な一面を如実に認識し得るのである。

その中で楊守敬にかかわる本を列挙すると、

儀礼図十七卷	日本鈔本
春秋経伝集解三〇卷	室町時代翻宋嘉定九年興国軍本
春秋経伝集解三〇卷	日本刻本
論語一〇卷	天文二年刻本
増修互註礼部韻略五卷	五山刻本
古今韻会举要三〇卷	日本翻元陳棗本

大唐六典三〇卷	享保九年近衛家熙刻本
荀子二〇卷	文政八年水玉堂刻本
黄帝内経太素三〇卷	日本影鈔卷子本
魏武帝註孫子三卷	嘉永五年刻本
孫子二卷	嘉永四年仙台済美館刻本
臣軌二卷	日本活字印本
大集経月蔵分一〇卷	日本古鈔本
弥勒菩薩所問本願經一卷	康治元年鈔本
大乘入楞伽經七卷	日本古鈔本
以上和刻本漢籍書目	
金石年表一卷 西田直養編	日本鈔本
篆隸万象名義三〇卷 釈空海撰	日本鈔本
以上日人漢文書目	

上の如く楊氏の印記や跋のある書は、漢籍和刻・和鈔本が十六点に対し、日本漢文書は僅か二点にとどまる。即ち楊氏の関心が主として漢籍にあり、和書に及ぶことは極めて稀であった。

楊氏蒐書のまとまったコレクションは台北の故宫博物院に観海堂本として現蔵されるが、その中の和書善本は阿部隆一氏の調査によると次の三九点である。

阿叉羅帖	(釈宗淵編)
医籍考	仙鶴堂輯
医籍考	丹波(多紀)元胤
医籍著録	小島尚真
瓦舍亭雜鈔	
漢土著述人名録	
九代記	
古京遺文	狩谷望之編
古文書彙	
雜録簿	
座右筆記	小島尚真
戎車考	山県大式
抄書	
聖徳太子伝	
浄土三部経音義集	釈信瑞
職源本妙	壺井義知
史略歌論	

新撰字鏡	釋昌住編
前言百種	
桑家漢語抄	伝楊梅顯直
体源抄	豊原統秋
醍醐寺古文書・倭漢年代暦	
仲文章	
篆隸万象名義	釈空海撰
日本国現報善惡靈異記	釈景戒
〔日本〕靈異記訓釈分音	
日本靈異記攷証	狩谷望之
八代集	
佛国禪師語録	釈高峯顯日撰 釈妙環等編
文鏡秘府論	釈空海
遍昭發揮性靈集	釈空海
本朝鐘銘抄	
本朝文粹	藤原明衡編 堀正意校
幼学指南鈔	
柳菴文藁	多紀（丹波）元胤
類聚名義抄	
連歌秘伝集（連歌至宝集）	里村紹巴
和漢朗詠集	藤原公任
和名類聚抄	源 順

観海堂本漢籍善本の内容を分類別に一覧すると

經部 一五八

易類 一八点

書類 一二

詩類 一一

礼類 一九

春秋類 二六

孝經類 四

群經總義類 三

四書類 二一（日人撰二）

楽類 二

小学類 四二

史部 一一二

正史類 二三

編年類 一六

紀事本末類	一
別史類	六点
雜史類	五
載記類	一
史鈔類	二
伝記類	一六 (日人撰三)
史評類	七
外国史類	四
地理類	一一
時令類	一
職官類	三
政書類	五
詔令奏議類	七
目錄類	四
子部	二五四
儒家類	四〇 (日人撰三)
兵家類	八
法家類	一
農家類	二
医家類	四一
天文算法類	二
術数類	一五
芸術類	五
譜録類	二
雜家類	二三 (日人撰二)
小説家類	一七
類書類	四五
釈家類	三七点 (日人撰一)
道家類	一六
集部	一七九
楚辭類	五
別集類	一二〇
総集類	四十四
詩文評類	四
詞曲	四
通俗小説類	二
叢書	一

以上は阿部氏が特に善本（宋金元版・古鈔本）として解題されたもので明・清の刊写本は含まれていない。なお台北の国立中央図書館にある観海堂本にも和刻・和鈔本が若干あり

經部	一三点
史部	四
子部	一八
集部	七

計四二点を算する。これらはいずれも漢籍であり和書は見出されない。結局故宮・中央図書館を併せて元刊以前の漢籍七四六点があるに比し、和書は三九点で20分の1強にすぎない。楊氏コレクションの和書は、日人の撰した漢籍の注釈等漢籍十四点を加えても、全体の十数分の一にとどまり、漢籍蒐書に偶然混入したものとみなされよう。

しかし『日本訪書志』を撰した楊氏は、華人には珍しく、日本の古籍に深い関心を寄せた極めて稀有な存在である点に変わりはない。日本善本の題跋として、『日本訪書志』は現在でも外国人の著した代表的書誌としてひろく参照されているのである。『日本訪書志』収録書を分類別に表示すると次のようになる。

3 欄の左が訪書志 中は続 右は補

經	部			
易	三	一		
書	三	三		
詩	一	一		
礼	二	三	一	
春秋	七	二		
孝經	四			
四書	六	三	一	
小学	三九	四	一	
叢書	一			
計	六六	一七	三	合計八六

史	部			
正史	二	三	一	
雜史	五		一	
史鈔	一			
伝記	二			
史評	一			
地理	六		一	
外国史	三			

職官	一	一		
政書	二			
金石	一			
計	二四	四	三	合計 三一

子 部

儒家	四	一	一	
兵家	三			
墨家	一			
農家	一	一		
医家	三〇	八	一	
天文算法	四			
術数	一			
芸術	二			
雑家	六	一	一	
小説家	九			
類書	一九	一	一	
釈家	十四	一	一	
道家	三	一	一	
計	九七	十四	六	合計 一一七

集 部

楚辞	一			
別集	三〇	一〇	二	
総集	二八	一	四	
詩文評	一			
計	五九	一一	七	合計 七七

総計 二四六 四六 一九 三一

三百余点の著録は四部の各類にわたるが、子部が相対的に多く、史部の少ない点が目立っている。歴史地理・金石・目録学の専門家であった楊氏の訪書志としては意外であるけれども、当代日本には楊氏の眼をひく史書が乏しかったことは認めねばならない。それに比し、小学・医書・類書・釈家及び文集が多い点が注目され、これは巨視的に日本の漢籍輸入の大勢をよく反映しており、楊氏の搜訪の周到であった状況を示唆する。

楊氏は書籍善本の他に写経や寺院文書等も収集し、石橋鯉城氏の調査撮影された山東省済南市の張景拭氏所蔵品は特に注目されるものである。その中から若干を挙げると、

唐鈔本仏説大孔雀咒王經卷上中下 3 卷

(上一九紙五〇九行、中二二紙五六五行、下一四紙三七二行、訪書志卷一六録)

瑜伽師地論卷十七 (十二紙三〇七行、天平一二年三月一五日藤原夫人為亡考及郡主發願一切經之一) 田中塊堂編『日本古写經現存目録』(思文閣、一九七三)には日本国内散在の十二点が著録される。

仏説須頼王經 (一九紙四九四行、延暦一六年藤原朝臣題記、法隆寺一切經印、訪書志卷一六録)

舍利講式 (一〇紙一二六行、建保三年高辨(明恵)題記)

日本喪禮儀式 (一五紙二二四行、建保五年題記)

大智度論卷一、三、六、七、九、一五、十八、一九、二一、二五、二六、二九、三〇、三二、三三、三六、四三、四七、五七、六〇、六四、六六、七三、八四、九一、九五、存計二六卷 (卷一一二紙五七六行、建久四年寛紹題記、高山寺印)

の如く唐写經と天平時代～鎌倉時代の日本写經及び仏事関係の儀軌等にわたり、高山寺伝来のものが少なからず含まれている。

筆者は上海図書館所蔵楊氏将来高山寺資料十点を実査、その内容は次のとおりである(1999年3月8～11日調査)。

行儀 注進千手御修学法七箇月支度事 (一五紙三二四行、嘉承三年、保安四年僧寛、高山寺印)

千手法 (四紙一〇四行、建久六年、高山寺印)

遺跡講式 (一四紙二〇二行、健保三年沙門高辨)

仏生会講式 (一〇紙+別紙三紙、元仁二年沙門高弁、後に正平七年記、十無尽院印)

龍供 (四紙九三行、延応元年拜勅修事報恩院書写之、求法弟子青玉、心蓮院印)

求聞持法 (五紙九二行、寛元二年書之、仁真之本、方便智院印)

求聞持法 息災・増益 (六紙一二六行、寛元二年伝書之、仁真、嘉暦二年、方便智院印)

求聞持次第 (一四紙+白紙二一九行、宝治二年七月之比、病中令、方便智院印)

涅槃講式 (十八紙二五二行、天文元年二月大仏事、良俊写本)

(古写經影照本二卷、須真天子經卷中卷下、神護景雲二年五月一三日一切經之二)

以上の十点の過半に高山寺関係の印が捺され又八点到楊守敬の印があり、張景弢藏品と一連のものも含まれ、楊氏が高山寺資料をまとめて入手将来した情況が明らかである。又北京の国家図書館にも楊氏将来本(松坡図書館旧蔵)が二八点以上存在し、これを実査された末木文美士氏の教示によると以下の仏典が挙げられる。

四分律藏卷一四 天平一二年(五月一日經)

仏説龍王兄弟經一帖(折本、一切經南都善光印)

華嚴經探玄記卷一之一、上下（粘葉）
阿毘曇經卷二三、二五、二六、三帖（折本）
十二門論一帖
正法念處經卷二、四、七〇、三帖、（折本）
大方等大集經日藏分一〇帖（折本、古經堂藏、文永二年識語）
大乘入楞伽經七帖（折本、古經堂藏、楊守敬跋）
大乘理趣六波羅密多經九帖（卷四欠、折本、一切經南都善光印、古經堂藏）
大乘密嚴經一帖（折本）
金剛光焰止雨陀羅尼經一帖（折本）
金剛恐怖集会方廣義軌觀自在菩薩三世最勝心經一帖（折本）
阿耨多羅陀羅尼阿嚧力品第一四一帖（折本）
金剛頂瑜伽他化自在天理趣會普賢修行念誦儀軌一帖（折本、元祿二年仏松の識語）
普遍光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王隨求陀羅尼經二帖（折本、一切經南都善光印、
承安三年識語）
底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法一帖（折本）
仏頂尊勝陀羅尼經疏上下二卷（一冊袋綴、享保八年奥書、東叡山開山堂藏本印）
大方広如来秘密藏經二帖（折本）
理趣經秘釈一帖（粘葉、正応三年識語、表紙に「慈眼」とあり）
両部曼荼羅私抄一帖（粘葉、慶長一五年奥書）
浄土三部經音義集三冊（袋綴）
日本真言教軌法事集二冊（袋綴、永正元年識語、仁和寺菩提院印）
仏説大方広曼殊室利經二帖（粘葉）
觀自在菩薩授記經一冊（仁寿五年識語）
念誦次第一冊（建久三年識語）（以上3点同一号瑪）
四分律卷一四、一卷（楊守敬跋）
大般若波羅密多經一帖（折本、正応三年奥書、古經堂藏印）
妙法蓮華經卷七、一卷

これら松坡図書館旧蔵本の多くに楊守敬の印章が捺されているが、捺印の無いものも観海堂本に由来する点は疑いない。なお国家図書館蔵（一四七七三号）には、天平十二年五月一日經の願文を付し、〈東瀛經卷〉の捺印があるが、この仏經殘卷は偽物と末木氏は注意されている。天平經の偽物が日本で作成されていることは周知に属するが、何時どこで誰の手でとなると未詳であろう。

最後に楊氏将来の日本中世文書の一端を紹介しよう。これは石橋氏撮影の小型焼付けから、井上聡・宇佐美隆之両氏（東京大学大学院生、日本中世史専攻）が識読し解説を付されたものである。

元弘～文和年間（一三三一～五二）天台座主尊円状（済南市張景弼氏蔵）

江州蚊野上庄

下司職事、山務之
時可吹拳之由、暹慶
令申之間、無是非出
拳状候了。以此趣
被達武家候者、定
不可有子細候歟、
謹言。

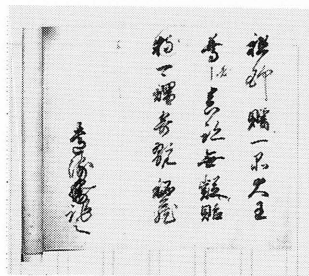
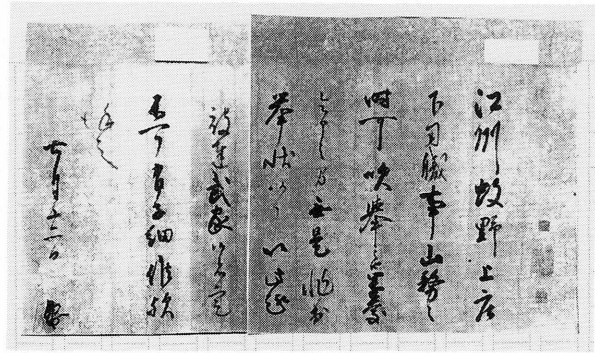
七月十二日（尊円）（花押）

祖師贈一品大王

尊 親跡無疑、 貽

特可謂奇翫秘藏。

（花押）記之



蚊野庄は近江国愛智郡にあり、現秦荘町の地に相当する。延暦寺妙香院門跡の相伝所領であったことが、「妙香院宮御参引付」（続群書類従三一下）などからわかる。応永以降には山城清和院に安堵されている（清和院文書）。尊円の花押であることは『花押かがみ』にて確認できた。彼がこの荘園に如何にかかわったのかは不明。山務の時とあるので、彼が天台座主在職時に発給したものか。彼の座主在任期は、元弘元年、正慶二年、暦応二年十月二六日～同四年十二月十九日、観応元年七月二日、同二年十月、観応三年六月十九日、文和元年である（天台座主記）。

後に附された文書は、本文が尊円筆であることを証したもの。時期、記主などは不明。尊円入道親王（一二九八～一三五六）は、伏見天皇第五皇子で、名は守彦、青蓮院門主・天台座主に任ず。書を世尊寺行房及びその弟行尹に学び、上代の書法を参酌して青蓮院流と呼ばれる一家をなし、江戸時代に流行した御家流はこの書風の低俗化した実用書である。

上海圖書館藏楊守敬将来高山寺資料略表

閲覧日 1999年3月8日(月)～11日(木) 上海圖書館 王宏先生のお世話になり、古籍善本閲覧室で一見。
マイクロ等は無く、また撮影は許されず、写真の注文にも応ぜられなかった。

標 題 紙数 行数	図書番号	『中国館蔵 日人漢文書目』 登載頁 分類	年 紀 等	印 記	備 考
行儀 注進千手御修法 七箇月支度事 1巻 15紙 324行	812421/50/B875	82 佛教佛會	嘉承3年(1108)6月8日 保安4年(1123)9月18日 僧 寛、	高山寺 楊印守敬 星吾海外訪得祕笈	上海市人民委員会 文物保管委員会 のラベル貼付
千手法 1巻 14紙 104行	812413/50/B912	89 佛教天台宗	建久6年(1195)8月24日	高山寺 楊印守敬 星吾海外訪得祕笈	同上
遺跡講式 1巻 14紙 202行	812435/259	83 佛教佛會	建保3年(1215)正月22日 沙門高辨	楊印守敬 星吾海外訪得祕笈	同上
佛生會講式 (背)佛典 末欠 1巻 10紙、別紙3 (背12紙)	812415/50/B874	83 同上	元仁2年(1225)4月7日 沙門高弁 正平7年(1352)卯月3日	十無盡院 楊印守敬 星吾海外訪得祕笈	同上
龍 供 1巻 4紙 93行	812432/50/B914 (0121)	101 佛教真言宗	延應元年(1239)6月14日 拜勅修事報恩院書寫之 求法弟子青玉	心蓮院 楊印守敬 星吾海外訪得祕笈	
求聞持法 1巻 5紙 92行	812433/50/B990	82 佛教佛會	寛元2季(1244)5月14日 書之 仁真之本	方便智院	同上 <玉偏(篇)> 積字条引用
求聞持法 息災 増益 1巻 6紙 126行	812425/50/B992	82 同上	寛元2季(1244)5月13日 傳書之 仁真、 嘉暦2年(1327)6月6日	方便智院	同上
求聞持次第 1巻 14紙+白紙 219行	812426/50/B1030	82 同上	寶治2年(1248)7月 之比病中令……	方便智院 楊印守敬	
涅槃講式 1巻18紙 252行	812431/50/B886	83 同上	天文元年(1532)2月15日 大佛事 良俊写本	星吾海外訪得祕笈	同上
番 古寫經影照本 2巻 外 (曬印照片反文本)	812411-12/	2 總記図書・ 書誌学	須真天子經卷中、卷下 神護景雲2年(768)5月 13日 一切經のうち	楊印守敬 星吾海外訪得祕笈	

参考文献

楊守敬の日本における訪書・蒐書および学者文人との交流をめぐっては、近年少なからぬ研究が進められており、最後にそれらを簡単に挙げて参考にする。

石橋暉水・石橋鯉城監修、杉村邦彦・難波清邱編『楊守敬とその交友展図録』中教出版 90年8月

温井慎祥「楊守敬 日本訪書の経緯と文化的貢献」大正大学研究紀要79輯 94年3月 23-51頁

陳 捷「関于《清客筆話》及其価値—日本所蔵楊守敬資料解題之一」原学第5輯（北京大学原学編委会編 中国広播電視出版社 96年7月）336-52頁

陳捷整理「清客筆話（楊守敬と森立之）」（謝承仁主編『楊守敬集』第13冊 湖北人民出版社・湖北教育出版社 97年6月）511-55頁

陳 捷「楊守敬と宮島誠一郎の筆談録」（中国哲学研究12号 98年3月）96-158頁

陳 捷「関于楊守敬と岩谷修筆談資料的初步考察—日本所蔵楊守敬資料解題之二」（98年6月）99-110頁

李 慶編注『東瀛遺墨（近代中日文化交流稀見史料輯注）』上海人民出版社 99年5月

陳 捷「明治前期における日中文化交流に関する一考察—楊守敬と彫り師木村嘉平との関係をめぐって」（浙江大学日本文化研究所編『江戸・明治期の日中文化交流』農山漁村文化協会 2000年10月）87-114頁

陳 捷「日本における楊守敬の訪書活動」（文学2巻3号 岩波書店 01年5-6月）81-92頁

陳 捷「楊守敬と羅振玉との交友について—楊守敬の羅振玉宛書簡を通して」（書論32号 特集羅振玉 01年）126-38頁

なお高山寺資料については第2次大戦後、国語学者築島裕氏らを中心とする多数の協力になる総合調査が続けられ、近年訓点語專家石塚晴通氏を研究代表者とする20名による平成8～10年度科学研究費補助金基盤研究（A）（1）成果報告書

『学芸複合構造体（コーパス）としての寺院経蔵の総合的研究—高山寺の場合を例として』99年3月 322頁

が公刊されている。

1999年11月21～31日出張 上海 上海師範大学、寧波 天一閣博物館、
杭州 浙江省博物館、広州 中山大学、広東省博物館

上海師範大学古籍研究所では、書庫内を戴建国教授の案内で参観調査、日本書ではなく、陳寅恪旧蔵那波本（白氏長慶本）批記を録出し、中山大学の紀念陳寅恪教授学会で報告した。

天一閣博物館では、蔵書の閲覧許可を得ることができず、寧波市図書館で収蔵日本書の調査を行った。近世後期・明治期の線装本を多く古籍として扱っていた。

浙江省博物館では、新設の紀念常書鴻美術館を参観し、浙江大学日本文化研究中心の王宝平氏と懇談した。

中山大学図書館では、古籍部で書庫内調査で日本古籍の点検を行い、なお、広東省中山図書館の古籍部で江戸時代刊本2点を点検した。

中国広州市 中山圖書館藏和漢書目録

1999 年 12 月

- 『毛詩品物圖攷』 岡元鳳纂輯 7 卷 3 冊 天明甲辰（1784）孟冬速木孔恭跋（樑氏藏書）
（広東人民図書館図書）印 90/1, 2
- 『輟耕錄』（元）陶宗儀撰 30 卷 8 冊 至正丙午（1366）孫大雅序（板阪立誠）印（広東人民図書館図書）（広東省立図書館珍藏印）印，其他 5 種印 有朱点朱校 90/11
- 『大方広佛華嚴經演義鈔』（唐）澄觀撰 63 卷 106 冊 杭州昭慶寺仙橋東首經房楚林印行，嘉靖戊午（1558）中秋沙門圖崑書写，钱謙益朱筆円点批校。

和書等日本关系書目録

- 日文講義 北平朝陽大学編 同大排印本 民国 1 冊
- 日本七十三義侠傳 3 卷（清）韩曇編 光緒 24（1898）排印 1 冊
- 日本大災記（日）劫餘生輯 哈爾濱書局 石印 1 冊
- 日本小学教育制度 戢翼翬編 光緒 27 年（1901）排印 1 冊
- 日本文部省沿革略 教育世界出版所刊 刻本 1 冊
- 日本文学史 2 卷 謝六逸著（影印本）上海書店 1991 年 12 月
民国叢書第 3 編 57 掇北新書局 1929 年版影印 1 冊
- 日本民事诉讼法論綱 高木豊三著 陈与年譯 1912 年上海商務排印 2 冊
- （節譯）日本田中内閣对滿蒙積極政策奏章 田中義一撰 湘潭縣谷記昌商店排印 民 20 1 冊
- 日本四十七侠士傳 存卷 1 青山延光著 東亞書局排印 残本 1 冊
- 日本史料雜鈔 不分卷 不著撰人 存 11—37 頁 抄本 1 冊
- 日本史略 附師船考 阿波, 岡本監著 光緒 20（1894） 1 冊
- 日本史講義 李宗武編 排印 1 冊
- 日本外史 22 卷 賴襄著 賴長刻本 明治 27 年（1894） 12 冊
- 日本外史 22 卷 賴襄著 钱懌評閱 光緒 4 刻本 4 冊
- 日本外史 存 1—20 卷 賴襄著 再版 残 11 冊
- 日本外交 傅雲龍述 排印 1 冊

- 日本犯華考 1 卷 (明) 殷都撰 台北新興書局影印 1975 年 1 冊
- 筆記小説大觀 10 編 第四冊
- 日本地理兵要 10 卷 姚文棟著 同文館聚珍本 光緒 10 (1884) 8 冊
- 日本近世史 楊適夷講述 排印 1 冊
- 日本近世豪傑小史 4 卷 商務印書館編 光緒 29 (1903) 商務排印 1 冊
- 日本法規大全 劉崇傑等譯 商務排印 光緒 33 (1907) 8 1 冊
- 日本法規解字 錢恂, 董鴻禕 編纂 商務排印 民 2 (1913) 1 冊
- 日本河渠志 傅雲龍著 排印 1 冊
- 日本金石年表 西田直養輯 潘祖蔭刻本 綫裝 1 冊
- 日本金石志 5 卷 傅雲龍述 光緒 15 (1889) 石印 (日本図經之中) 6 冊
- 日本帝國海軍之危機 盛田曉著 林汝魁等譯 民 4 (1915) 排印 2 冊
- 日本帝國憲法義解 伊藤博文撰 沈紘譯 光緒 23 (1897) 金粟齋印 商務排印 1 冊
- 日本帝國憲法義釋 伊藤博文撰 沈紘譯 光緒 27 (1901) 金粟齋譯行 排印本 1 冊
- 日本軍事教育編 錢恂編 光緒 26 (1900) 排印 1 冊
- 日本政治地理 7 篇 矢澤昌永原著 陶鎔譯述 光緒 28 (1902) 商務排印 1 冊
- 日本政俗撮要 蕭鴻鈞纂輯 光緒 21 (1895) 排印 1 冊
- 日本陸軍動員計劃令 陸軍省編 民 32 (1943) 國防部排印 1 冊
- 日本陸軍士官學校中華民國留學生名簿 郭榮生校補 文海出版影印 近代中國史料
續編 37 輯 370 1976 年 1 冊
- 日本陸軍動員計劃令細則 14 章 附錄 1 冊 陸軍省編 國防部排印 (3 部) 民 33 (1944) 4 冊
- 日本商律 丸山長渡著 湖北商務報館譯 光緒 27 (1901) 刻本 1 冊
- 日本現時教育 吉村寅太郎著 羅振常譯 明治 31 (1898)
- 附日本高等學校規則要覽 小野磯次郎編 周維新譯
- 幼稚教育恩物圖說 關信三纂輯 小侯規義譯 1 冊
- 日本現勢論 日本東邦協會原本 養浩齋主人輯譯 排印 1 冊
- 日本國手丈和奕譜 日本丈和撰 文瑞樓 石印 民 17 (戊辰) (1928) 4 冊
- 日本國志 40 卷 首 1 卷 黃遵憲著 文海出版社 民 63 (1947) 3 冊
- 近代中國史料叢刊續編 10 輯 96
- 日本國志 40 卷 黃遵憲編纂 匯文書局 光緒 24 (1898) 刊本 14 冊
- 日本國志 40 卷 黃遵憲編纂 上海書局 石印 光緒 27 (1901) 4 冊
- (影旧鈔本) 日本國見在書目 1 卷 藤原佐世奉勅撰 光緒 10 (1884) 影印 古逸叢書之 19 1 卷
- 日本源流考 22 卷 王先謙撰集 清刻本 存 4 冊 (卷 7—22)

- 日本新史攬要 石村真一编辑 游瀛主人譯 石印 光緒 25 (1899) 7 册
(东洋)日本新史攬要 石村真一编辑 游瀛主人譯 石印 光緒 25 存 5 册 (欠卷 2, 3)
- 日本新政攷 2 卷 顧厚琨著 光緒 20 (1894) 上海書局石印 1 册
- 日本詩文集 63 卷 存 31 卷 (日本) 魯直纂 放浪吟社石印 存 6 册
(欠卷 1-6, 11-20, 33-37, 49-59)
- 日本文語教程 2 卷 劉杙貴編 南路師範學堂 排印 1 册
- 日本圖經 30 卷 (欠卷 1-3) 殘 27 卷 傅雲龍述 排印本 存 13 册
- 日本維新三十年史 東京博文館編 羅普譯 上海廣智書局排印 光緒 31 (1905) 6 册
- 日本維新史 12 編 東京博文館輯 羅孝高譯 光緒 23 (1897) 排印 6 册
附 30 年間國勢進步表 東京博文館續輯
- 日本維新英雄兒女奇遇記 長田偶得著 原口增一譯 上海廣智書局排印 光緒 29 (1903) 1 册
(中等教育)日本歷史 萩野由三著 劉大猷譯 教育世界社石印本 光緒 27 (1901) 5 册
(新撰)日本歷史問答 岡野英太郎著 逸人板喬譯 上海廣智書局排印 光緒 29 (1903) 1 册
- 中日戰爭資料 佚名輯 近代中國史料叢刊 第 4 輯 35 民 55 (1966) 文海出版社 影印 1 册
- 日本學制大綱 4 卷 泰東同文局撰 橋本武譯 泰東同文局石印 光緒 28 (1902) 4 册
- 日本發召俠士傳 2 卷 愚山真軼郎述 神戶東亞書局 排印 光緒 24 (1898) 2 册
- 日本雜事詩 黃遵憲著 近代中國史料叢刊續編第 10 輯 95 文海出版社 影印 民 63 (1974) 1 册
- 日本議和記略 欠名編 近代中國史料叢刊續編第 18 輯 176~8 文海出版社 影印 民 64 (1975) 1 册
- 日本議會史 12 期 工藤武重著 汪有齡譯 通州翰墨林書局 光緒 30 (1904) 排印 12 册

2000年5月1日～6日出張 台北

国立中央図書館台湾分館 笠谷和比古先生等数名と同行、2日～5日の4日間午前・午後調査。本館蔵書については『国立中央図書館台湾分館線装書目録』（1991年6月刊、Ⅶ+792頁、附書名・著者索引）があり、主要部分は漢籍であるが、相当量の和書も含まれている。日本統治時代に台湾総督府図書館蔵書であったものが、1950年代以降本館に引き継がれた書が主体をなす。

本人は台湾について記述した資料に関心が大きかったので、『光緒統修台湾府志』26巻をはじめ、『台湾通志』40巻、『諸羅県志』12巻、『新竹県制度考』、『苗栗県志物産考』、『采訪冊式』、『嘉義管内采訪冊』、『淡水県簡明総括図冊』、『台南府恒春県簡明総括図冊』、『六十七両采風図』の類を一見した。和書としては

○『唐土名勝図会続編』存6冊、虫損、第1冊文、第2～6冊絵図。「大正10年4月12日購求」、江戸刊本 〈台湾総督府図書館蔵〉〈台湾省立台北図書館蔵書章〉印、岡田氏旧蔵。

4803

○『五経図彙』3巻3冊 松本愚山編纂 林師彪校、虫損、寛政辛亥（1791）平信庸序、天明五年（1785）官准、寛政三年8月発行、卷上易・書、卷中詩、卷下春秋・礼。

A0984/4859 和264

○『昨非菴日纂』20巻5冊 鈔本 文政乙酉（1825）水西亭居士写。

0756 8713

を見た。なお和刻本として下記がある。

○『大毗盧遮那成佛神變加持經供養法』6冊 嘉吉元年辛酉（1441）権律師覚増刊。

09013

○『鐔真文集』存巻10・11、1冊 （宋）釈契嵩撰、日本旧刊本。

09019

上に挙げた『線装書目録』には6405点に上る漢籍・和書が分類収録され、詳細な排架番号を附し日常閲覧者の利用に供されている。用紙も厚い上質紙を用い製本も堅牢であり、梁津南主任以下複数の館員の3年にわたる尽力に成る。本目により6千数百点の旧籍を一覧し得るのは大きなメリットながら、若干の問題も含んでおり、以下気付いた所を略記して将来の改善に資したい。

分類が新書を基準とする「中国図書分類法」により、分類項目内では書名の筆画順排列となっている。旧籍と新書の混在する本目では、本の年代順排列が望ましい。また分類の総類の中が、革命文庫・目録学・類書・普通論叢・普通叢書・群経の6項に分たれる。そのうち普通叢書（0305・0574）には叢書とそうでない個々の書が混在しており、甚だしい混乱を示す。この点は根本的改訂を要す。なお普通論叢（0228・0304）の中に『歴代小史』（0296）の如き叢書や子部雑家の他に、経部に普通入れる『白虎通德論』や子部儒家に属す『漢学商兌』等が同居していて未整理の印象を与える。他方『安祿山事迹』（2221・3665）、『東華録』（2249・2495）、『春秋経伝集解』（0613・2301）

『列祖成績』(3561・3726)、『華陽国志』(2381・2856)、『籌辦夷務始末』(1918・2471)、『隸篇』(3919・4094)、『彙刻書目』(0130・0515)、『韓詩外伝』(0651・4276・4992)、『環鏡楼唱和集』(3325・4989)、『蔵名山房文初集』(4580・5768)、『譚祖安先生手写詩冊』(5008・6252)、『興賢吟社百期詩集』(3323・4982)、『倪雲林先生詩集』(4441・4829)、『李長吉歌詩』(0379・4706)、『格致課芸彙編』(0263・4145)、『粵西金石略』(2876・3901)、『台湾雜詠合刻』(3285・4937)、『夢界遺文』(4171・5744)、『蒼海全集』(4532・5746)、『蘇元存稿』(4191・5777)、『尔雅』(0642・4070)、『蒲留仙遺著考略与志異遺稿』(4531・6467)、『夢覚山莊古稀記念集』(3290・4268)、『網溪詩集』(3297・4947)、『籌濟編』(1674・2012)等一書が2ヵ所に登載されるものは、一処にまとめるのが妥当であろう。

中国北京市 北京師範大学圖書館藏和書目錄

1999, 2000 年

井ノ口哲也氏 調査

東京大学大学院生

- | | |
|---------------|--|
| 支那医学史 | 陳邦賢著 (日) 山本成之助 譯
日本昭和十五年(1940) 東京大東出版社 |
| 仁和寺寶庫日本神藥書記 | 不著撰者 拠日本抄本影抄 |
| 医官玄稿(三卷) | (日) 望山英(君彦, 鹿門山人) 著 望元泰輯
日本寶歷二~三年(1752~3)
日本苏岭山藏板刊本 |
| 扁鵲倉公列傳割解(二卷) | (日) 滕惟寅割解 滕惟正路补正
日本明和七年(1770) 日本刊本 |
| 古書医言(四卷) | (日) 吉益為則(公言, 東洞先生) 著
日本文化十年(1813) 晚成堂刊本 |
| 医事古言 | (日) 吉益東洞撰
日本文化二年(1805) 長金館刊本 |
| 傷寒全匱稱量考分量等考合刻 | (日) 浅野韞玉 正木瀨平著
日本寛政三年(1791) 文刻堂刻本 |
| 医林蒙求(三卷) | (日) 樋口器 輯
日本文化二年(1805) 日本江戸書林 鴨伊兵衛刻本 |
| 扁鵲傳正解 | (日) 中茎 謙 著
日本文政六年(1823) 日本刻本 |
| 扁鵲傳解 | (日) 石坂宗哲 著
日本天保三年(1832) 刊本 |
| 古方藥品考(五卷) | (日) 内藤尚賢 著
日本天保十三年(1842) 平安朱蕉園刊本 |
| 扁鵲倉公傳 | (日) 丹波元堅 輯
日本嘉永二年(1849) 日本存誠藥室刊本
内容: 1, 扁鵲倉公列傳
2, 扁鵲倉公傳匯考 |

- 3, 扁鵲倉公傳考異 (異)
- 4, 扁鵲傳略考 (日) 崛川 濟 撰
- 唐宋八大家医傳 金元清明八大家医傳 (日) 岡田 元矩 著
- 日本明治二十二年 (1889)
- 支那中世医学史 (日) 廖温仁 著
- 1932 年 東京弘文社
- 日本儒医研究 (日) 安西 安周
- 日本昭和十八年 (1943) 東京龍吟社
- 耆宿丁福保先生 (日) 松枝 茂 著 抄本
- (仿宋本) 黃帝内經素問 二十四卷 (唐) 王冰著
- 日本安政四年 (1857) 拋明顧從德仿宋本翻刻
- (重広補注) 黃帝内經素問靈樞 各二十四卷 附校勘記
- (唐) 王冰 著 (宋) 林億等校
- 日本寛文三年 (1663) 日本中尾氏藏板刻本
- 素問入式 運氣論奧 (三卷) (宋) 劉温舒 撰
- 日本正保三年 (1646) 日本刻本
- 日本寛永刻本
- (新刊) 黃帝内經靈樞 二十四卷 (宋) 史 崧音釋
- 日本繡谷 书林 周日 校刻
- 素問玄機原病式 (金); 劉完素 (守真) 著 [河間]
- 日本元祿三年 (1690) 日本刻本 (愚齋)
- 黃帝内經素問灵樞注証癈微 (各九卷 補遺一卷) (明) 馬蒔 注
- 日本寛永五年 (1628) 翻明萬曆十四年 (1586)
- 宝命堂刊本 (素問九卷)
- 内經知要 (二卷) (明) 李中梓 (念我, 士材) 輯注
- (清) 薛 雪 校
- 日本寛文二年 (1662) 武村市兵衛刊本
- 素問筭記 (三卷) (日) 喜多村直寛 輯
- 抄本
- 二經類纂 (三卷) (日) 椿庭山田 輯
- 日本安政二年 (1855) 抄本
- 運氣論奧疏鈔 (十卷) (宋) 劉温舒 原著 (日) 松下 見林 疏
- 日本寛文五年 (1665) 日本刻本

- 難經本義（二卷）
（元）滑 寿（伯仁）本義
日本翻印 吳中衍 校本
- 難經集注（五卷）
（明）王九思（敬夫）輯 【鄆県】
日本文化元年（1804）濯纓堂藏板刊本
- （王氏秘傳）圖注八十一難經評
林捷經統宗 （六卷）
（明）王文潔圖注
日本翻刻万曆劉氏安政堂刊本
- 難經經釋（二卷）
（清）徐大椿 釋
日本寛政十二年（1800）翻刻聿修堂藏板
- 難經或問（二卷）附录一卷
（日）古林 正禎 著
日本正徳五年（1721）皇都書肆文英閣
文泉堂刊本
- 難經の研究
（日）本間祥白 井上理恵校閲
日本昭和四十年（1965）横須賀 医道の日本社
- 伤寒論（十卷）
（漢）張 機 著 （晋）王熙（叔和）编次
（宋）林 億 校正
日本安政三年（1856）日本觀理藥室据明赵开美本翻刻本
- 類証活人書（二十二卷）
（宋）朱肱（翼中）著 【吳兴】
日本寛政十一年（1799）皇都書林翻刻本
- 金鏡内台方議（十二卷）
（明）許宏（宗道）集 （清）程永培 校
日本敬業樂群楼板刊本
- 傷寒論集解（十卷）即“集注伤寒論”
（漢）張機 著 （宋）成無己注 （清）張卿子參注
日本翻刻本
- 傷寒尚論篇全書
（清）喻 昌（嘉言）著 （清）徐 彬（忠可）參訂
日本元祿九年（1696）日本刻本
- 傷寒論後条辨（十五卷）
（清）程應旆（郊倩）著 【新安】
日本宝永元年（1704）博古堂刻本
- 傷寒溯源集（十卷）
（清）錢潢（天来）著 【虞山】
日本享和三年（1803）日本据康熙間刻本翻刻本
- 傷寒貫珠集（八卷）
（清）尤 怡（在涇）著 【吳門】
日本文政年間稽古齋刊本
- 傷寒論類方
（清）徐大椿（靈胎）編

- 康治本傷寒論
日本寛政九年（1797）聿修堂藏板刊本
（日）戸上 重較（玄斐）標註
日本安政五年（1858）京都書林刊本
日本昭和四十年（1965）日本民族医学研究所復刊本
- 医經解惑論（三卷）
（日）内藤希哲 著
日本文化元年（1804）崇古堂刊本
- （補正）輯光傷寒論（二卷）
（日）東洞吉益 授 藤田大信等補正
日本天保九年（1838）東都書賈青藜閣刊本
- 傷寒考
（日）山田正珍 著
日本安永八年（1779）刊本
- 傷寒論類辨
（日）古田原 著
日本弘化四年（1847）千鍾房刊本
- 傷寒論図説
（日）原元麟 著
日本寛政十二年（1800）刊本
- 傷寒論特解（十卷）
（日）斎必簡 著 浅野徽 補注
日本寛政三年（1791）日本拙庵藏板刊本
- 傷寒論辨正
（日）中西惟忠 撰
日本寛政二年（1790）日本澄霞園刊本
（卷前十餘頁鼠咬残缺）
- 傷寒啓微（医学質驗仁集）（三卷）
（日）片倉元周 撰
日本寛政五年（1793）刊本（封底作“伤寒啓微奥書”
書口作“静儉堂”）
- 傷寒外傳（三卷）
（日）橘春暉 著
日本寛政八年（1796）日本黄華堂藏板刊本
- 校正傷寒論（十卷）
（漢）張機 著 （日）浅野徽 校
日本寛政九年（1797）拙庵藏板刊本
- 傷寒論精義（五卷）
（日）原元麟（子振） 著
日本文化元年間 昭昭坊刊本
- 傷寒論正義
（日）東洞先醒 口説 秦蘭齋貞幹識
日本抄本
- 傷寒広要（十二卷）
（日）丹波元堅 著
日本文政十年（1827）存成藥室刊本
- 傷寒論述義（五卷） 附答問一卷 伤寒論述義補 （日）丹波元堅 著

- 傷寒発微
日本天保十四年（1843）存成堂藥室刊本
（日）中川 故 著
- 傷寒辨術
日本文政十年（1827）刊本
（日）浅田惟常（宗伯 栗圓） 著
- 傷寒論文字考（二卷，続二卷）
日本弘化四年（1847）勿誤藥室刊本
（日）伊藤馨（子徳）著
- 傷寒六经析義
日本嘉永四年～六年（1851～3）熙熙室刊本
（日）喜多村直寛 著
- 傷寒論疏義（七卷）
日本嘉永四年（1851）日本学訓堂藏板刊本
（日）喜多村直寛著
- 经方辨
日本学訓堂聚珍板
（日）山田業広 著
- 傷寒翼方
日本明治十二年（1879）日本濟衆病院
（日）浅田惟常 著
- 傷寒辨要
抄本
（日）浅田惟常 著
- 傷寒論
日本明治十四年（1881）好生医院
（日）木村博昭 著
- 傷寒論講義
日本昭和八年（1933）春陽堂刊本
（日）奥田謙藏 著
- 傷寒論笱記
日本昭和四十年（1965）東京医道の日本社
（日）喜多村直寛 著
- 金匱要略正義（二卷）
日本学訓堂聚珍版
（清）朱光被（峻明）注
日本抄本
- 金匱玉函要略述義（六卷）
（日）丹波元坚 著
日本原修堂原刊本
- 金匱玉函要略述義（三卷）
（日）丹波元坚 著
日本嘉永七年即日本安政元年（1854）存誠藥室原刊本
- 金匱玉函要略方論疏義（六卷）（卷首一卷）
（日）喜多村直寛 著
日本文化元年（1861）学訓堂聚珍版
- 傷寒雜病全論解（十八卷）
（日）徳内常矩 著

- 日本抄本
- 雜病辨要（二卷）（附）雜病補亡論（一卷）
（日）浅田惟常 著
日本安政四年（1857）联腋書院活字本
- 皇漢医学（三卷）
（日）湯本求真 著
日本昭和三年（1928）南江堂
- （新刊）医工入式（三卷）
（日）土岐重之 著
日本寛文七年（1667）日本刻本
- 医学鈎玄（三卷）
（日）香月牛山（啓益）撰
日本柳枝軒刊本
- 漢方医藥全書（又名）皇漢医藥
（日）栗原広三 著
昭和四年（1929）東京日本藥業新聞社
- 漢法医藥全書
（日）恩田重信
昭和十三年（1938）東京南山堂
- （益軒先生銓定）頤生輯要（五卷）
（日）竹田定直
日本正徳四年（1714）日本刊本
- （考注）養生訓
（日）貝原益軒 著 南祥山 注
昭和九年（1934）東京貝原養生訓普及会
- 心身强健之秘訣
（日）藤田靈斎 著
1913 年鉛印本
- 長生不老強健法
（日）寒川瀨 編輯
日本大正十一年（1922）東京長生不老研究会
- 漢方養生談
（日）荒木正胤 編
昭和三十九年（1964）東京大法輪閣
- 延寿和方匯函（二卷）
（日）貞厚三宅意安 輯
日本抄本
- 南方医藥研究資料
日本東京帝大南方科学研究会医藥学部編
日本昭和十八年（1943）東京南山堂鉛印本（第一号）
- 医家七要（卷二・別録）
（無著撰者）
日本抄本
- 論奥辨証（三卷）
（日）松下見林
日本刻本
- 医学指南篇
日本豐潤閣写本

- 脉因証治（丹溪朱氏脉因証治）（四卷） 日本抄本
- 脉訣刊誤（脉訣刊誤集解） （元）戴起宗（同父）撰 （明）汪機 補訂
日本寛永十九年（1642）刊本
- （鏗太上天室）太素（張神仙）脉訣 玄微綱領宗統（七卷） （明）張太素 著
日本寛文三年（1663）日本扨明萬曆年間安正堂刊本翻刻
- 傷寒舌鑒 （清）張登（誕先） 著 【長洲】
日本思得堂翻刊本
- 東郭腹診錄 （日）東郭和田 著
日本昭和十年（1935）浅妻屋書店油印本
- 脉学輯要（三卷） （日）丹波元簡 撰
日本聿学堂刊本
日本万笈堂刊本
- 診侯大概 （日）坪井信道
抄本
- 二家診录 （日）岐山診法 谷嶋武 正記
日本抄本
- 診療漢法医筌 （日）森田幸門 毛利部紫山 合編
日本昭和五年（1930）同濟書房
- 漢方診断初門 （日）今井平三郎 編
日本昭和九年（1934）大阪漢方医学院
- 舌胎図説 （日）土田敬之（恕庵）纂述
日本昭和十年（1935）浅妻屋書店
- 病因診侯一脉法真知（即“脉法手引草”）
（日）北岳先生 著 藤村表英 考注
山延年養谷 編輯
日本昭和十年（1935）大阪耆活堂
- 脉法手引草 （日）山延年 輯
日本昭和三十八年（1963）横須賀 医道の日本社
- 和漢医学六診提要（附）一本堂行余医言
（日）撰者佚名 梁岩 傳
日本昭和十一年（1936）東京和漢医学社
- 腹診奇覽 （日）稻葉文礼
日本昭和十四年（1939）東京漢方珍書頒布会

- 腹診奇覽翼 (日) 和久田叔虎 著
日本昭和十四年 (1939) 東京漢方珍書頒布会油印本
- 漢方療法 (診断与処方) (日) 大塚敬節 著
日本昭和三十三年 (1957) 日本雄弁会講談社
- 日本仁和寺藏唐卷子本新修本草残卷 (五卷) (附) 唐新修本草解釋 (一卷)
(唐) 李勣, 蘇敬等修
(日) 中尾万三 解説
日本昭和十一年 (1936) 大阪本草圖書刊印会影印本
- 藥證續編 (二卷) 附录一卷 (日) 村井純 (大年) 著
日本天明五年 (1785) 京都書林刻本
- 本草啓蒙名疏 (七卷) (日) 小野 職孝 編
日本文化六年 (1809) 衆芳軒刊本
- (新訂増補) 和蘭藥鏡 (十八卷) (日) 宇田川榛斎 譯述
日本文政十一年 (1828) 風雲堂藏板
- (増訂) 和漢藥考 (前後編) (日) 小泉榮次郎編
前編: 日本明治四十三年 (1910) 東京朝音屋書店
後編: 日本昭和十三年 (1938) 東京南江堂
- 大和本草 (十六卷, 附录二卷) (日) 貝原篤信 (著)
白井光太郎等考注
1932-36 年東京春陽堂
- (重訂) 本草綱目啓蒙 (十三卷) (日) 小野 職孝 著 刈米達夫等考注
1933 年東京春陽堂
- (和訓) 古方藥議 (五卷, 続録一卷) (日) 浅田宗伯 著
日本昭和十一年 (1936) 東京漢方医学会
- 和漢藥物学 (正統二卷) (日) 直野五七郎, 一色直太郎著
日本昭和十二年 (1937) 大阪同濟号書房
- 本草啓蒙補遺 (二卷) (日) 黒田樂善 著
抄本
- (図説) 和漢藥応用の実際 (日) 宮前武雄
日本昭和十八年 (1943) 東京南山堂三版 鉛印本
- 北支那之物資藥物研究 (日) 近藤竜雄 著
日本大正十一年 (1922) 青島支那医学会
- 北支那の草藥 (附索引) (日) 石戸谷勉 著

- 救荒本草（二巻，附录一卷） 日本昭和十七年（1942）東京同仁会
（明）朱壩（周定王）編
- 藥草による万病の治療と食養法 日本享保元年（1716）柳枝軒刊本为十四巻
（日）久保田真種 著
- 漢方の真義と新食養法 日本昭和六年（1931）日本金星堂
（日）安西安周
- 食餌療法と其の実際 日本昭和九年（1934）東京春陽堂
（日）岡通 著
- 漢藥術の生藥学的研究 日本昭和九年（1934）東京南山堂
（日）高橋真太郎 著
- 藥性歌括 日本医学館刊本
- 勿誤藥室方函口訣（二巻） 日本明治十一年（1878）勿誤藥室活字本
（日）浅田惟常 口授 浅田惟敏 筆記
- （頭注国譯）本草綱目（附拾遺） 日本明治十一年（1878）勿誤藥室活字本
（明）李時珍
- 本草圖譜（九十三巻，附索引二巻） 日本昭和四～九年（1929～34）東京春陽堂
（日）岩崎常正 著
- 有毒植物圖譜 日本大正十至十一年（1921-22）本草図譜刊行会刊本
（日）東京博物学研究会 編
- （新撰）藥用植物圖譜 1908 年東京參文舎
（日）平野一貫 著
- 北海道藥用植物圖匯 日本明治四十三年（1910）東京山口徳次郎鉛印本
（日）工藤祐 須崎忠助 著
- （諸病治療）藥用植物圖鑒 日本大正十一年（1922）東京川流堂
（日）青木信一 著
- 妙藥植物圖鑑 日本昭和七年（1932）東京金童堂
（日）青木信一 著
- 全植物圖鑑 1934 年東京木村書店
日本博物研究会 編
- 原色藥用植物圖譜 日本昭和十年（1935）東京国民教育会
（日）刈米正夫
- （原色圖譜）藥草滿洲 1942 年東京三省堂
（日）東丈夫 著

- 中南支ノ藥用有毒植物写真集
日本昭和十七年（1942）東京東亞旅行社
（日）姚井直幹
- 農家副業藥用植物栽培法
日本昭和十九年（1944）
（日）岡村猪之助
- 藥草の利用と栽培法
日本大正八年（1919）東京実業之日本社
（日）谷本龟次郎
- 本草和名（二卷）
日本昭和十六年（1941）東京泰文館
（日）深江輔仁 輯
- 能毒全
日本大正十五年（1926）東京古典全集刊行会影印本
（無著撰者）
- 日本抄本
- 藥性提要
（日）多紀先生 簽定
- 日本文化四年（1807）広元堂刊本
- 二經類纂服法類
日本抄本